

第3回奈良県総合教育会議 ー議事録概要ー

日時： 平成29年3月27日（月）

場所： 奈良県庁 第1会議室

○ 議題： 「奈良県文化振興大綱」の策定について

村田地域振興部長が資料＜奈良県文化振興大綱【概要】＞を使って、大綱の内容を説明。

- ・ 文化芸術振興基本法が制定され、教育学術文化の振興に関する大綱を首長がつくることのできるようになり、昨年度の「奈良県教育振興大綱」に続き、今年度は「奈良県文化振興大綱」を策定する。
- ・ 本年の秋、奈良県では国民文化祭と全国障がい者芸術文化祭を全国で初めて一体開催する。この時機を捉え、本県らしい文化振興施策のあり方を大綱によって示していきたい。
- ・ この文化振興大綱は、地元の方も来訪者も歴史を通して日本や地域の文化への理解を深めることができるような状態、県民が芸術文化に親しみ自ら活動に参加する機会が多く設けられている状態並びに奈良県に住まうことへの誇りと文化継承の機運が醸成されている状態等を実現していくために、各地の文化振興施策推進の考え方や方向性をまとめたものである。
- ・ 奈良県の強みである歴史文化資源を活用する分野及び芸術文化振興分野の2つを両輪として効果的に関連づけながら個性あふれる文化振興施策を推進していきたい。
- ・ 歴史文化資源活用分野においては、県の全ての職員が地域の歴史を意識した施策を推進する気風を培い、歴史に関する説明力の向上、特に子どもにもわかりやすい説明や人に感動を与える歴史の本質に触れるような説明手法の確立などに留意しながら施策を推進していきたい。
- ・ 「いつでも、どこでも、だれでも」をキーワードに、芸術文化に触れ、参加できる機会を設けたり、交流を深められる場等を作りたいと考えている。また、これまで推進してきた「ミュージックフェスト」の取組に加え、芸術の力で住民の皆さんが元気に心豊かになれるような施策を推進していきたいと考えている。
- ・ 文化芸術の分野であるので、成果目標のみで全てを表すのは難しいが、成果目標・行動目標の2つを設定しながら、取組についての進捗もはかっていきたいと考えている。
- ・ 資料の3ページ目には、本県の文化振興施策の方向性、事業の展開例について記載している。例えば「情報発信の強化」は歴史文化資源分野にも芸術文化振興分野にもあげられているが、効果的な発信手法、発信のための情報編集手法を確立し、市町村等と一緒に発信していくということである。また、(仮称)奈良県国際芸術家村については、歴史文化資源活用施策展開の総合拠点として、あるいは芸術文化の交流・ふれあいの場として、整備していく予定である。
- ・ 今回、実施をしたパブリックコメントにおいて、県民の皆様から「説明や展示を上手くやって欲しい。」「本県の文化資源を後世にいかにして引き継ぐのか。」「子ども達にぜひ本物の文化芸術を味わって欲しい。」と大きく分けて、3つのポイントについて、全部で9件のご意見をいただいた。いずれも今後、県が進めていこうとしている文化の振興や取組に対して非常に貴重なご指摘をいただいたと考えている。

○ 主な意見

- ・ 奈良は日本のはじまりの地であるとともに、古代より国際交流を通じて伝わった、アジア文化のふるさとである。文化や芸術の全てが歴史的なことにつながるということが奈良の奥深さである。このような文化・芸術を子孫や未来に継承していくこと、また、文化の振興を牽引していく地域のリーダーを育てることが課題である。
- ・ 次代を担う若者向けのわかりやすい説明が必要であり、説明力の向上が必要。
- ・ 文化振興大綱に掲げる施策の実現を通して、明るく楽しく元気に過ごせる奈良県を目指すことが大切。
- ・ 文化振興大綱は幼児教育から生涯教育までを網羅している。教育振興大綱と歩調を合わせ、継続して推進していくことが必要で、それが我々の役割である。
- ・ 衣食住に関わった文化が本県には多く存在する。そのような文化も大切にしていきたい。
- ・ 文化振興の推進のために、自分もできることをしていきたい。
- ・ 教育振興大綱には、「地域への誇りと愛着を抱き、地域と協働し、地域・社会に貢献する人材の育成」がうたわれている。中学生・高校生が、奈良県を誇りに思い、奈良県のことをしっかり語ることができる、そのような生徒に育てていきたいと考える上で、この「文化振興大綱」の果たす役割は非常に大きいと考えている。特に「歴史文化資源活用分野」という側面においては、高校における「奈良T I M E」の授業が定着し、高校生も、奈良県の歴史・文化について語れるようになりつつある。小・中学校では、「郷土学習の手引き」を来年度以降作成し、全面的に市町村と協力しながら取り組んでまいりたいと考えている。「芸術文化振興分野」については、高校の文化連盟という組織があり、非常に文化度の高い活動をしている。中学校・高校と連携しながら、「芸術文化の振興」を果たしていくことができる県の役割は、今後大きくなると思っている。「教育振興大綱」も「文化振興大綱」も、教育の力量を高めていくことにより実現できると考えているので、今後も、しっかりと市町村や市町村教育委員会と連携をはかっていきたい。

○ 総括

- ・ 文化には、生活を豊かにし人に元気を与える力があり、地域の共同体意識を高める力がある。
- ・ 文化イベントの成果は経済効果だけで測れない、それを超える意味がある。
- ・ 文化振興大綱が固まってきたので、今後はこれからの文化振興施策をいかに実行していくかが重要である。
- ・ 民間のイベントに対する支援のあり方について、その是非の判断やスキームなど、行政技術を開発していくことが課題。